

新総合体育館基本構想（案）概要版

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



I 構想の概要

構想策定の目的・背景

現体育館は、体育館内の各施設の予約状況は飽和しており、大会開催時は駐車場不足という十分な規模を有しておらず、また冷暖房設備の未整備や、バリアフリー化が進んでおらず利用者等のニーズを満たしていません。このような状況から、競技スポーツをはじめ、子どもの健全育成や健康づくりなど、様々な効果が期待できるスポーツ振興の一環として、誰もが安心・安全に利用できる施設づくりが必要と考えられます。本構想は、市民等のニーズを踏まえ、新総合体育館に求められる機能や設備・規模を明らかにし、整備候補地を選定したうえで、新総合体育館の在り方について、基本的な考え方をとりまとめることを目的とします。

II 基本コンセプト

『賑わい・交流・つながる』スポーツの活動拠点

1. 誰もが安心して利用できるスポーツの活動拠点
2. 長期的にスポーツ活動を支え、地域に貢献する施設運営
3. 「する」「観る」「支える」「知る」スポーツの活動拠点

III 施設整備方針

基本コンセプトを基に、整備方針を定め詳細検討については基本計画において実施します。

維持管理・運営の基本的なあり方

官民連携手法を用いて民間事業者のノウハウを活用した運営体制を築き、スポーツの親しみやすさや施設の利用しやすさを向上し、多様なイベント開催、多様な利用者へのプログラム提供等に取り組みます。

施設機能

- 総合体育館として持つべき機能
- 新たに求められる機能

施設規模

知多半島圏内の屋内競技大会を開催できる施設規模とし、バスケットボールコート3面分を確保可能なメインアリーナ、同じくバスケットボールコート1面分を確保可能なサブアリーナ、その他器具庫等の諸室を含め、総延床面積 9,000 m²程度と見込みます。ただし、官民連携手法の導入に伴う事業者提案等により、延床面積は変動する可能性があります。

IV 建設地

建設地検討結果

基本コンセプト及び施設整備方針を基に、市民アンケート及びワークショップ、スポーツ協会からの要望やスポーツ団体へのヒアリング、さらに民間事業者へのサウンディング調査結果を踏まえ、【半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）敷地内】と【現半田市立半田病院】を総合的に比較評価した結果、「将来的な敷地内の施設拡張性」「複数施設の一体的運営によるスケールメリット」が発揮しやすい【半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）敷地内】を新総合体育館の建設地としました。

・市民アンケート・市民ワークショップ

建設地に対する課題点として、「広域的な利用、イベント時の交通混雑障害を避ける、十分な駐車場、市民病院との連携、災害時の防災機能を担う」との意見がありました。

・スポーツ協会からの要望とスポーツ団体へのヒアリング

建設地に対する課題点として、「十分な駐車場の確保、大規模な大会の開催ができる、市民病院との連携、災害時の防災機能を担う」との意見がありました。

・民間事業者サウンディング（効果的な体育館の運営）

効率的かつ効果的な新総合体育館の運営について、実績ある複数の民間事業者にサウンディングを実施したところ、「建設地周辺の活用可能地の有無、周辺施設の一括管理運営が活かせる場所が良い」との意見がありました。

建設地内の整備場所の検討

建設地である【半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）敷地内】には、既に多くの公園施設等が設置され新総合体育館の建設可能な場所は限定されます。施設規模を総延床面積 9,000 m²程度と想定すると、下図の「A」「B」「C」が整備場所として想定されます。なお、整備場所の決定については基本計画において実施します。



出所：半田びよログスポーツパーク ホームページ「公園案内図」より作成